

令和6年度の年金額改定について

令和6年度の年金額が、法律の規定により、令和5年度から2.7%の引上げとなります。

	令和5年度（月額）	令和6年度（月額）
国民年金※1 （老齢基礎年金（満額）：1人分）	66,250円	68,000円 （+1,750円）
厚生年金※2 （夫婦2人分の老齢基礎年金を 含む標準的な年金額）	224,482円	230,483円 （+6,001円）

※1 昭和31年4月1日以前生まれの方の老齢基礎年金（満額1人分）は、月額67,808円（対前年度比+1,758円）です。

※2 平均的な収入（平均標準報酬（賞与を含む月額換算）43.9万円）で40年間就業した場合に受け取り始める年金（老齢厚生年金と2人分の老齢基礎年金（満額））の給付水準です。

国保病院のお医者さん

医師が足りません！

記：吉田優一

医師看護師に限らず慢性的な人手不足で困っています。医師に関しては、現在当院の常勤医は3名となりますが、体調不良や研修などで不在を余儀なくされることもあり、常に病院で勤務することができるとは限りません。週何日か応援してくれたり、週末の当直をやってくれる大学の先生もありがたいのですが、「安定した医療を提供できる環境」という点では非常に問題があります。

新しく一緒に働いてくれる常勤の医師を常に探している状態ではありますが、求人広告を見て連絡してくれる人すらもおらずという状況です。いろいろな理由はあるでしょうが、町や病院に魅力がないからとかアピールが足りないとかからいうのではなく、当院のような地方の病院で仕事をしたいと思っている医師が根本的に少ないのであろうと思います。

ときどき当院と同じような環境の医師と話をする機会がありますが、どこも厳しい状況です。社会問題化していますが、今の医学部を卒業したばかりの研修医の志望する進路は、内科や外科は少なく、当

院であれば1～2週ごとに来て診療をしてくれている科に人気があるというものです。誰でもそうでしょうが、患者さんが頻繁に亡くなったり、夜間時間外の呼び出しが多い科というのは敬遠したくなりますよね。知内町や福島町がすでにそうですし、上ノ国町も来年度より町立診療所を民間の医療法人に委ねて存続を図ろうとしています。

大学などの大きな組織に頼らずに医師を確保することは非常に難しい時代になっています。どこの大学も当院のような地域に医師を派遣できるほどに多くの人材を持っていないのも事実です。結局は、地方の病院同士で医師の取り合いという醜い構図になりかねない事態です。自力で地方の病院機能を維持するのは、かなり限界に近づいているのであろうと私は思っています。

という当院の現状報告でした。